



「ベジート」は、ニンジンやダイコン、トマトなどをペーストにして、乾燥させたシート状の食材。肉や野菜を巻いたり、ジュースなどと一緒に加熱してジュレにしたりと、いろいろな楽しみ方ができる。食感は海苔のようにパリッとして食べやすく、香りはもちろん、口の中で野菜そのものの味がふわりと広がってゆく。ベジートの開発者であり、株式会社アイルの代表を務める早田圭介さんは「野菜のシートは世界中にあります。香りがするのはベジートだけです」と話す。

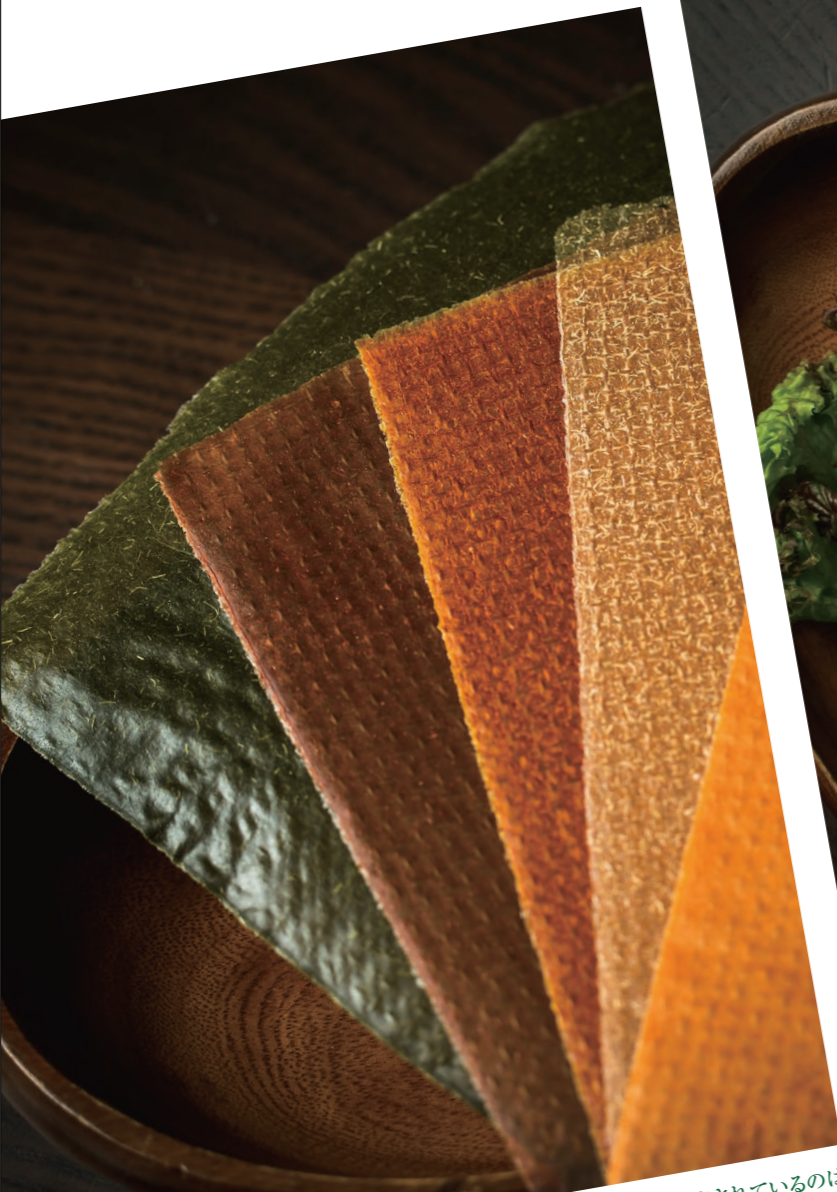
ベジートが評価されている理由の一つは、原料が野菜と寒天のみということ。体に優しい上に、添加物を使用していないにもかかわらず、賞味期限は二年と長く、鮮やかな色もそのまま。この技術は早田さんが独学で培ったもので、「企業秘密なんですよ」と笑う。

また、原料に規格外の野菜を使っているという点も、大きな評価を得ている。早田さんは毎週のように各地の農家へ足を運び、信頼関係を築くことで、規格外の野菜を安定的に仕入れることができるようになったと話す。廃棄予定だった野菜が活用されるのは、農家にとっても喜ばしいことだ。

ベジートはもともと、三十代から四十代の女性をターゲットに開発していたが、思いもかけない人々からも反響があった。「野菜嫌いの子どもの親や、固いものを咀嚼できない高齢の方、また海外のレストランのシェフなど、さまざまな方から喜びの声をいただいています」。こうした支持を受けて、現在、新たに力を入れて取り組んでいるのが、防災食としての活用。「防災食といえは、炭水化物が主です。そのため、避難生活が長引くと、野菜不足で体調を崩す方が出てきます。しかし例えばニンジンのベジートなら、一枚で二分の一本分のニンジン摂ることができてきます。しかも薄くて軽いので、輸送や保存場所の確保も容易です」。早田さんは、非常食用に賞味期限を五年にしたものを、国際機関などへも供給できるよう取り組みを進めているという。伝染病や紛争など、さまざまな状況で野菜を食べることができない人たちにベジートを届けたい。その思いは、カタチになるうとしていく。

規格外の野菜を使った 体にも環境にも優しい 新食材。

ベジートは薄くて軽く、
見た目は色の付いた海苔のよう。
食べると、野菜の味が凝縮されているのが分かる。
食卓を華やかに彩ってくれるのも魅力だ。



デザートにもピッタリのベジートのジュレ。
アイデア次第で料理のレパートリーが
広がってゆく。

現在発売されているのは、
ニンジン、ダイコン、トマト、カボチャ、ホウレン草の5種。
この他、開発中のものもいくつもあり、
今後、次々に新商品が誕生する予定だ。

野菜から 生まれたシート

ベジート

ジートは、平戸市田平町で
作られている。工場は田ん
ぼに囲まれ、周囲にはのどかな風景
が広がっている。

大阪で証券会社のセールスマン
だった早田さんが、父親の病を機
に、故郷・平戸に戻って来たのは、
二十八歳の時。久しぶりに見る故郷
は「活気がなかった」と言う。「半
年かけてマーケティングの結果、
高齢化をはじめとする数々の課題が
見つかりました。中でも、平戸には
製造業が少なく、若い人が働く場が
少ないという状況から、この町が生
き残るためには、製造業をつくる必
要があると考えました」。

そんな時に出会ったのが、県外の
海苔メーカーが製造していた野菜
シートだった。早田さんは画期的な
アイデアだと感激したものの、シー
トの食感は悪かったという。その海
苔メーカーが廃業した際、野菜シー
トの事業を引き継ぎ、改良を決意。
大学の研究者と共同で開発を進め、
野菜と寒天のみでシートを作ること
に成功した。「ただ、海苔用の機械
ではシートが十分薄くならず、乾燥
に八時間もかかっていました。そこ
で、シートを薄くし、短時間で乾燥
できる機械を開発したんです。これ
により厚さも現在の〇・一ミリが実
現し、乾燥時間は十五分に。食感も
良くなりました」。

ベジートの開発には二十年以上の
歳月を費やした。「上手いかず何
度も泣きました」と言いながらも、
この間、早田さんは決して諦めるこ
とはなかった。その情熱の源を尋ね
ると、即座に「故郷への思いです」
という返事が返ってきた。「自分を
木に例えると、故郷は根っこ、一番
大切な部分です。いくら葉が茂って
いても、根が腐ると、枯れてしま
う。だから平戸を元気にしたい」。

そして、こうも続ける。「私が働い
ている最大の目的は、農家、従業
員、消費者…みんなに喜んでもらう
こと。これができれば、ビジネスは
永遠に続きます。私はお金ではな
く、誰かの喜びや笑顔こそが儲けだ
と考えているのです」。

早田さんは将来、ベジートを世界
中で作り、多くの人に食べてもらい
たいと話す。野菜を余すことなく
使って作る製法は、環境問題に敏感
なヨーロッパの人たちにも歓迎して
もらえる、と期待している。「世界
中の工場をこの平戸から遠隔操作
し、AIを駆使すれば、気候などの
条件が異なっても、高品質の商品を
製造することができます。夢はもう
動き出しているんですよ」と目を輝
かせた。故郷への思いから生まれた
ベジートは、世界へ羽ばたこうとし
ている。

故郷を
元気にしたい。
その思いが
私のすべて。

株式会社アイル

平戸市田平町小手田免419-1

TEL.0950-57-0808

http://vegheet.com/



ベジート 検索

幼い頃からの遊び場だったという崎方公園にて。
ここからは港や教会、お城などが一望できる。
「平戸らしい風景が広がっていて、大好きな場所です」と早田さん。